

アイオン台風による早池峯山腹

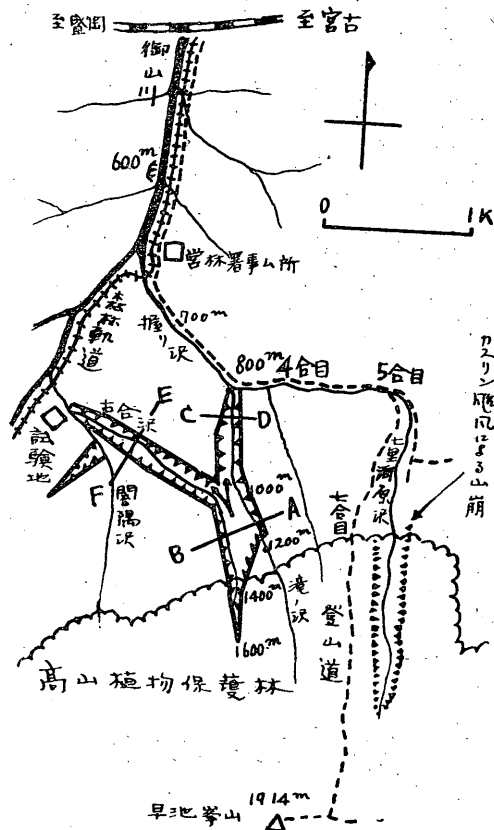
山くずれ概報

八木 恒 介*

1948年9月16,7日におけるアイオン台風による水害は宮古附近でも相当激烈であつたが、土砂くずれも各所に起り復旧に困難をきわめている所も少なくない。

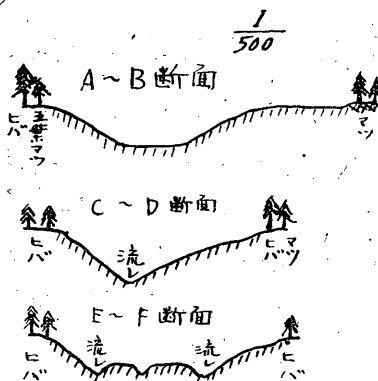
位置 北上山脈の略中央に位し、その最高峰で標高1914mをしめす早池峯山の北側および南側には各所に山くずれが起つた。宮古、盛岡の略中間でやや南に寄つた地点である。山稜は東西に

第1図(1)



長く(約10km)南北に狭く(約4km)、概観すれば南西山腹は最も峻急である。山形はやや凹字的(ただし上が北)で第1図はこの内側に

第1図(2)



当り御山川は閉伊川の支流である。南側は閉伊川の分岐で東流する薬師川と北上川の分岐で西流する岳川により田越峠(1214m)を分水嶺とし一直線に区切られている(第2図)。

概況

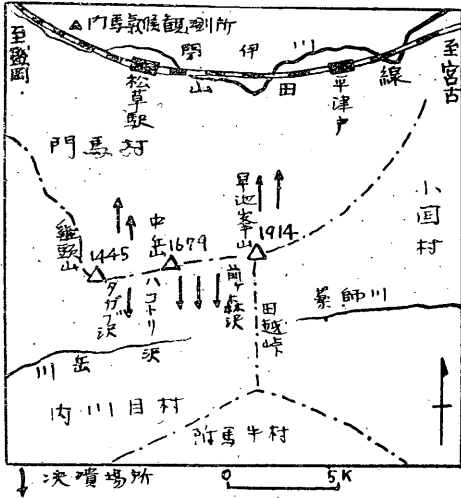
岩質は局地的には手元の資料にとぼしいため明らかでないが、北上山脈中区附近一帯は秩父古生層が主体で花崗岩、閃綠岩、蛇紋岩のごとき

1948年9月16日アイオン台風時の早池峯北部山ろくの山くずれ見取図(盛岡鉄道管理部踏査)
(崩壊面積40町歩)

* 宮古測候所

深成岩が相当広く露出している地域である。北面山腹はふもとから見ると山の形が、やや変り、遠くからも高山植物のハエマツで青緑の山の北西部8合目あたりに、はつきり山はだが三角形にぬけ出しているのが見える。このほか、谷間などの小さい地すべりはかなりあつたらしく、8合目からふもとにかけて縦に帯状の数條が残っている。盛岡鉄道管理部の踏査によれば(第1,2図)、山くずれの主なものは3箇所で計約40町歩であり、なお詳細な川井管林署の報告によると、このほかに小規模なもの3箇所を加えると計約53町歩におよぶ。

第 2 図



附近略図

早池峯山西寄り南面を南西に20kmへだたる大迫町から望見すると、数條のハゲハゲが現出した。頂上と中岳の中間の前ヶ森沢、ハコトリ沢、タガブ沢などを初め大小の沢はおおむね全部山津波の災害をこうむっており、この面積は1,000町歩に達するのではないかと見られている(第2図)。内川目村に残る古文獻によると、400余年前、かなりの水禍があつたことが記されているが、こんどの水禍はこの400年前の災禍が再現されたのであろうという。降水は一晝夜にわたり宮古では250mm、盛岡では152mm、山頂から北西約10kmの門馬区内観測所では230mmであつた。この報告は踏査困難のため盛岡鉄道管理部の踏査図面と川井管林署踏査図面および報告、数回にわたる当時の新聞記事およびその他の文献によるものである。(1948年12月10日記)